⑧高橋菊江さん

３回も招集された夫との戦争にまつわる思い出

夫の高橋辰之助は大正７（1918）年８月３日生まれ。今から８年前に亡くなりましたが、生きていたら 96 才になります。３回招集されているんです。

１回目は少年兵として篠山連隊に入って上海へ出兵しましたが、そこで負傷して昭和 18 年に招集解除になったみたいです。その後に誰かの紹介で彼に出会ったんです。昭和 19（1944）年 4 月、辰之助の姉の家にみな集まって結婚式を挙げました。戦争のまっただ中だったので質素なものでしたが、日本髪のかつらをつけて記念写真は撮影しましたよ。でも、その後はみなもんぺで質素な暮らしでした。お姑さんと一緒に中津本通で暮らしました。夫はその頃「警備招集」というものにかかっていて、夜中に空襲警報のサイレンがなるたびに走り回っていました。その時の赤紙が２回目の招集です。届いた時に私が駅まで知らせにいったのをよく覚えています。当時武田薬品の十三工場で働いていた夫の帰宅を迎えに、中津駅まで赤紙を持っていたんです。それで家まで一緒に帰りながら「軍隊にまた行かないかんわ」と話していたことを覚えています。

⑧高橋菊江さん

結婚して間もないのに、空襲が激しくなるにつれ、さらに夫は３回目の招集を

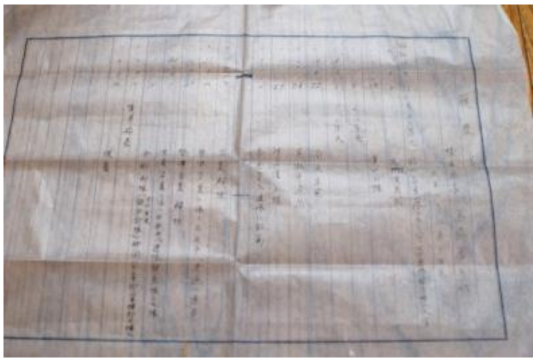
高橋菊江さん（93）大正 11（1922）年 岡山生まれ。小学２年生で大阪布施の叔母の家へ。昭和 19（1944）年 4 月に高橋辰之助さんと結婚。辰之助さんは平成 19 年に他界しているが、区広報を見て「お父さんの戦争の時の勲章や奉公袋があるんだけど」と情報提供をいただき、インタビューではご主人との思い出を語ってくださった。

受けました。兵庫県の龍野に軍隊の本部があって、そこに配属になったんだと思います。(辰之助氏が書いた履歴書によると歩兵第八連隊)。

軍隊に招集されるとなかなか会えないでしょ。あるとき辰之助の連隊がある学校で訓練をしているという噂を聞いたんです。一目でも見れないかと思ってそこまで訪ねていったこともありました。遠くから連隊を見るだけなんですけどね。

空襲が激しくなるにつれて、中津にあった家は借家だったのでそこは明け渡して、私は姑さんと一緒に故郷の岡山に疎開しました。昭和 20（1945）年の８月 14 日、終戦の前日にたまたま私は夫に面会のために龍野を訪ねていました。本部では直接面会できないので、近くの民家をお借りしてそこに一泊泊めていただいて軍服姿の夫と会いました。偶然にもその翌日にその家で私は玉音放送を聞きました。

夫は軍隊の後片付けを終えて 9 月には岡山の疎開先に復員してきました。そこから、元々武田薬品に籍があったので 10 月頃には大阪の田川に家族で帰って来たんです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

ご主人が戦時国債や勲章などを大切に保存されていた様子。貴重な資料は写真でおさめている。